

世界史プリント(1-15) 生徒番号()氏名_____

第4章 4. モンゴル民族の発展 b, 元の東アジア支配

- ① 1271 フビライの支配地=[1 **元**]と改称、中国支配に重点
首都を[2 **大都**] (北京)に移す。
- ② 1279 [3 **崖山**]の戦いで南宋を滅ぼし、4 **中国全土を支配する**
- ③ [5 **高麗**] (朝鮮半島)を攻撃、激しい抵抗を破り属国化
→[6 **日本**]への遠征([7 **元寇**], 1274、1281)、失敗に終わる
- ④ 東南アジアへの進出
 - ・雲南へ遠征、[8 **大理**]を滅ぼす→タイ族の南下= 13世紀[9 **スコタイ**]を建国
 - ・ミャンマ(ビルマ)に侵入、[10 **パガン**]朝滅ぼす
 - ・[11 **ヴェトナム**]・[12 **ジャワ**]への遠征をおこなう→失敗

モンゴル帝国では 1260年[13]が大ハンとなったことをきっかけに[14]の乱が発生、各ハン国は独立国の性格をつよめた。こうした分裂のなかでフビライは[15]に重点をおくようになり、国名も中国風に[16]と改称、首都も[17]に移した。
元は 1279年[18]を滅ぼし、征服王朝としてははじめて中国全土を支配した。また[19]半島での40年にわたる抵抗をやぶり[20]を属国化し、この国の人々も動員して[21]を攻撃したが失敗した。雲南にあった[22]を滅ぼし、[23] (ミャンマ)へも侵入するなど[24]諸国に大きな影響を与えた。また[25]、ジャワも攻撃したがいずれも失敗におわる。

- ⑤ 元の中国支配
 - ・[26 **伝統的な官僚**]制をとり中国風の統治を行う。
 - ・[27 **モンゴル第一**]主義をとり、28 **政治の指導部をモンゴル人が独占する**
(cf. 北魏)
 - ・身分制度… モンゴル人→[29 **色目**]人→[30 **漢**]人→[31 **南**]人

※色目人 32 **中央・西アジアの出身者** 漢人 33 **金の支配下にいた漢民族や契丹人・女真人など**

- 南人 34 **南宋支配下にいた人々・大部分が漢民族**
 - ・[35 **科挙**]の一時廃止、モンゴル語の公用語化
 - ・公文書でのウイグル文字や[36 **パスパ**]文字を多く使用
→漢民族とくに[37 **士大夫**]・儒者らの打撃→反発
- ⑥ [38 **チベット仏教**]教信仰、[39 **大運河**]開削などで財政窮迫
→[40 **交鈔**] (紙幣)の濫発・専売制の強化などで経済の混乱がすすむ
1351[41 **紅巾**]の乱 ([42 **白蓮**]教徒中心)勃発→元、北方へ逃れる (北元)

元の中国支配では[43 **モンゴル第一**]主義をとり、漢民族にたいして力による支配をおこなった。またモンゴル人を中心とする身分関係もつくりあげた。かれらは、それまでの征服民族と違って[44 **漢民族軽視**]の態度をとった。
他方、かれらは経済の発展には積極的で、貨幣経済の進展もみられた。しかしラマ教信仰、大運河開

削などによって財政困難におちいり重税を課し[45 **交しよう**]を濫発したため経済が混乱、江南地方を中心に[46 **紅巾**]の乱が発生、元は北方へ逃れ漢民族の国[47 **明**]国家が成立する。

c, 交通・貿易の発達

- ① 48 **商業**を重視し、通商路の確保をめざす→外国貿易の発展
 - ・交通路の安全を重視= 駅伝制 ([49 **ジャムチ**])の施行→ 50 **東西交易**の活発化
 - ・海上輸送の活発化=[51 **杭州(臨安)**] (キンザイ)[52 **泉州**] (ザイトン)[53 **広州**]
- ② 大運河の補修 ([54 **新運河**]) → 国内流通活発化すすむ
- ③ 貨幣経済の進展→紙幣 (= [55 **交鈔**])の流通

モンゴル人は商業を重視し外国貿易の発展につとめた。[56 **駅伝**]制をしき交通路を整備、中国では[57 **大運河**]の開削をすすめた。また[58 **交鈔**]が発行されるなど貨幣経済も発展した。

d, 東西交流と元の文化

- ① ヨーロッパ人の訪問← 駅伝の制の整備、ヨーロッパ人の東方への関心
 - [59 **プラノ=カルピニ**] (ローマ教皇の使者)、ルブルック (フランス王の使者)
 - [60 **モンテ=コルヴィン**] → 大都へ来訪、中国へ[61 **カトリック**]を伝える (大都大司教に)
 - [62 **マルコ=ポーロ**] → イタリア[63 **ヴェネツィア**]出身「世界の記述 (東方見聞録)」
 - [64 **イブン=バトゥータ**] 「三大陸周遊記」
- ② 文化の交流
 - イスラム→医学、数学、暦学、砲術 ex. 郭守敬 [65 **授時暦**] → 日本、貞享暦へ挿し絵←イスラム=細密画 ([66 **ミニアチュール**]) ←中国=絵画 (水墨画など)
- ③ 文学→[67 **庶民**]文学の発達←科挙の中断
 - 戯曲 ([68 **元曲**]) ……「西廂記」「漢宮秋」(北曲)、「琵琶記」(南曲)
 - 小説 ……[69 **『西遊記』**][70 **『三国志演義』**][71 **水滸伝**]などの原型の成立
- ④ 美術 …… 文人画中心

ユーラシア大陸の多くをしめる巨大な国家としてのモンゴル帝国の成立はヨーロッパ人東方への関心と呼びさまし、ヨーロッパ人の訪問もふえた。はじめて中国へカトリックを伝えた[72 **モンテ=コルヴィン**]、「世界の記述 (東方見聞録)」をかいたイタリア人の[73 **マルコ=ポーロ**]、「三大陸周遊記」をかいたイスラムの大旅行家[74 **イブン=バトゥータ**]などが有名である。
イスラムから中国へ医学、数学、暦学、砲術などが伝えられ、[75 **郭守敬**]はイスラムの暦をもとに授時暦をつくり、東アジア諸国に大きな影響をあたえた。またイスラム諸国の[76 **細密**]画 (ミニアチュール) は中国美術の影響が見られる。このような文化の交流もすすんだ。
この時期の文化は[77 **庶民**]文化が隆盛となった。文学では[78 **元曲**]といわれる戯曲がかかれた。「西廂記」「琵琶記」「漢宮秋」などが有名である。また「西遊記」[79 **水滸伝**]「三国志演義」など大衆小説の原型も成立した。